

「平成23年度大阪府学力・学習状況調査」における

岬町の調査結果概要

平成23年10月

岬町教育委員会

大阪府学力・学習状況調査における本町の調査結果

平成23年10月

1. 調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することにより、大阪の児童生徒の課題の改善に向けた教育及び教育施策の成果と課題を検証し、府内全体の児童生徒の学力及び学習状況の改善を図る。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、児童生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を把握し、その改善を図る。
- (3) 各学校が、児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導の改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学校力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (4) 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査の名称

『平成23年度大阪府学力・学習状況調査』 実施日：平成23年6月14日(火)

3. 調査の対象

小学校第6学年（147名）、 中学校第3学年（143名）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

小学校：国語A・算数A（主として「知識・技能」に関する問題）

国語B・算数B（主として「活用する力など」に関する問題）

中学校：国語A・数学A（主として「知識・技能」に関する問題）

国語B・数学B（主として「活用する力など」に関する問題）

英語

主として「知識・技能」に関する問題

- ◇身につけておかなければ後の学年に影響を及ぼす内容
- ◇実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など

主として「活用する力」に関する問題

- ◇知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ◇様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対するアンケート調査

- ◇ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

学校に対するアンケート調査

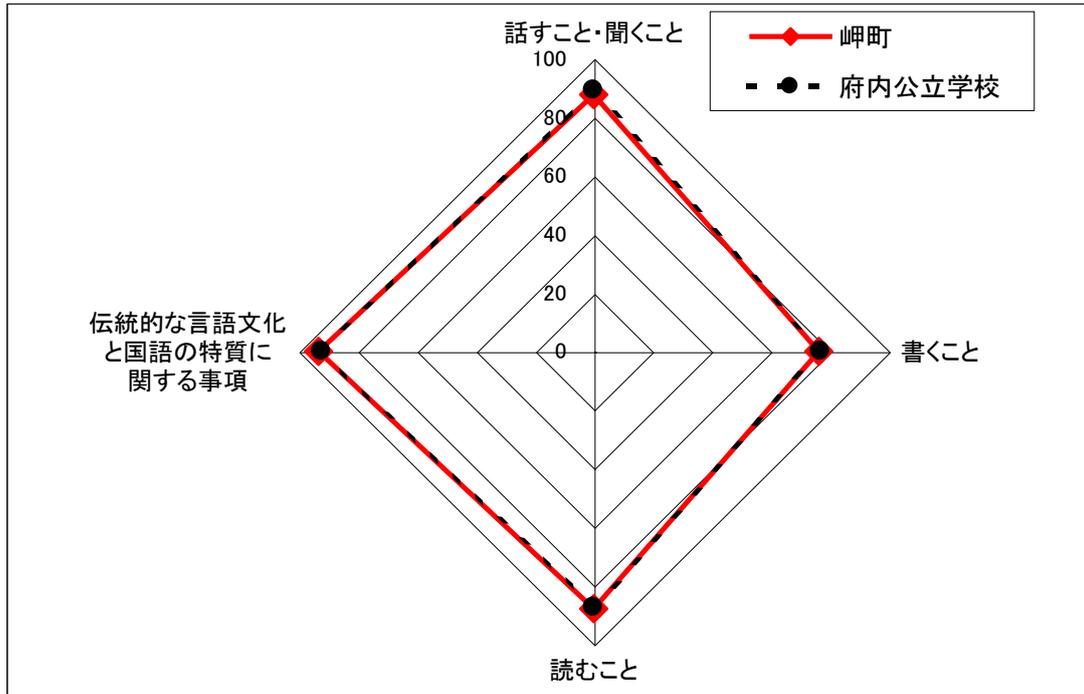
- ◇ 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

※ 本調査の結果は学力の特定の一部です。

小学校国語A

◇問題数等 国語Aの問題は、主として知識に関する問題で、全部で17問ある。

◇調査結果 学習指導要領の領域別
(小学校 国語A レーダーチャート)



○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については良好であり、90%以上の正答率がある。

○「話すこと・聞くこと」「読むこと」については比較的良好であり、80%以上の正答率がある。

●「書くこと」については、課題がある。

◇A区分問題にみえる課題等

○ 漢字を正しく「読む」「書く」ことについては良好である。

【例】包む(つつむ)は100%の児童が正解している。

○ 文脈に即した接続語や語句を選択することについて良好である。

○ 言葉を組み合わせたり、分解したりすることについて良好である。

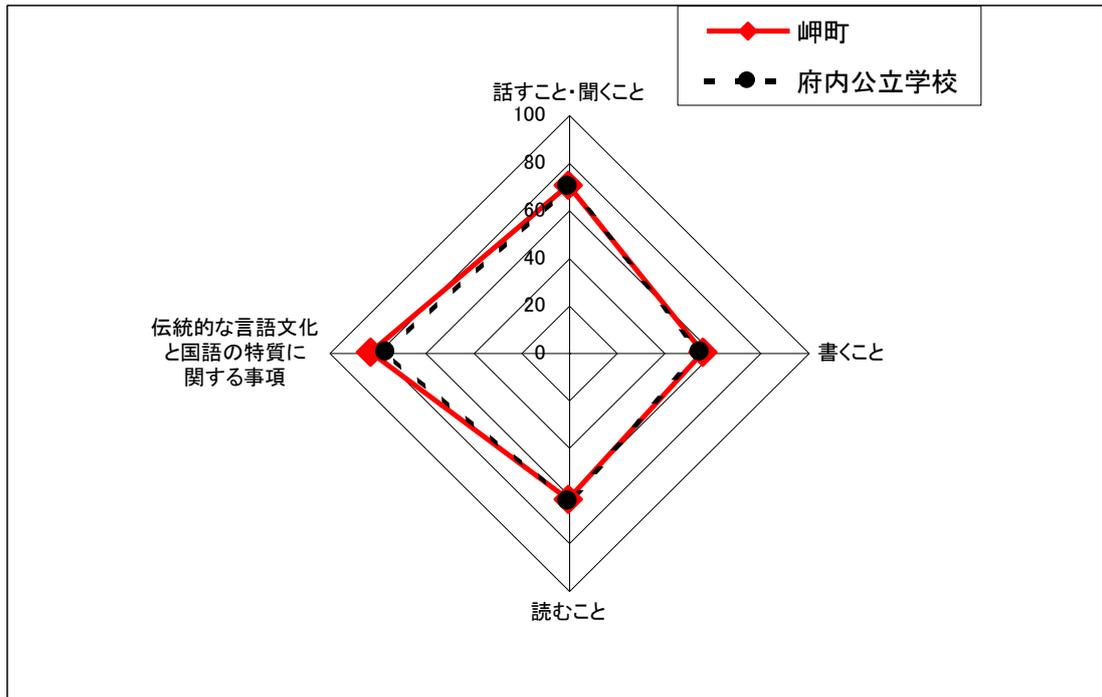
【例】『考える』+『直す』→『考え直す』

●「ポスター等を見やすくするための表現の工夫」について、課題がある。

小学校国語B

◇問題数等 国語Bの問題は、主として活用に関する問題で、全部で10問ある。

◇調査結果 学習指導要領の領域別
(小学校 国語B レーダーチャート)



- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については良好であり、80%以上の正答率がある。
- 「書くこと」については、課題がある。

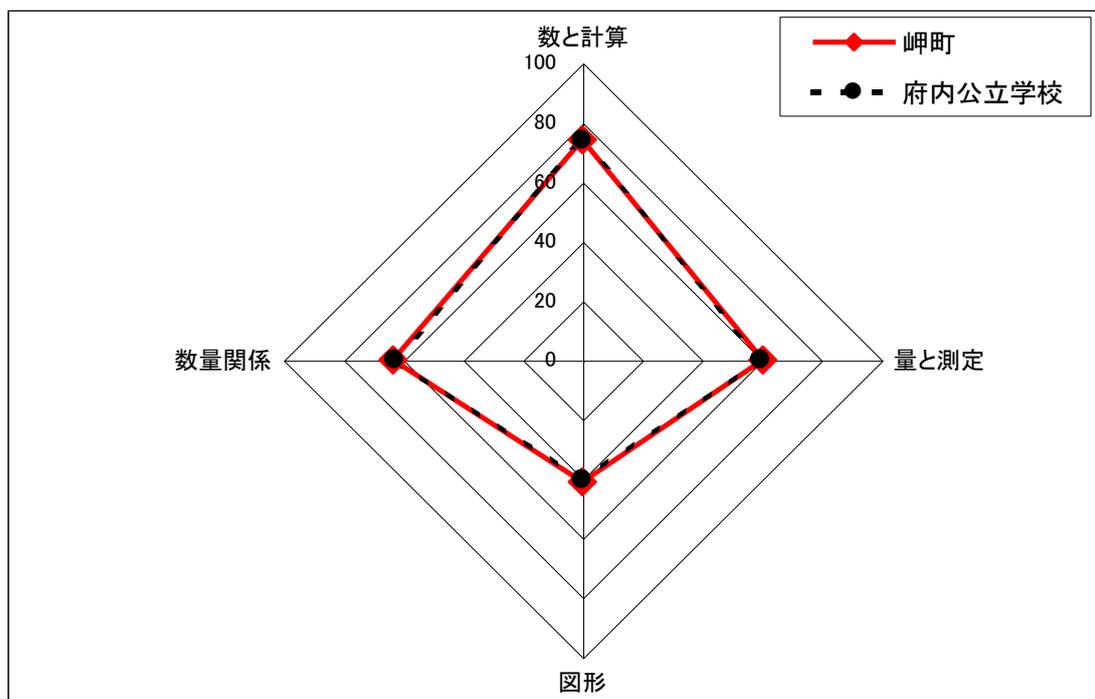
◇B区分問題にみえる課題等

- シンプルにまとめられた表などからの文章化については良好であり、75%の正答率がある。
- 目的や意図の応じて表現を工夫して話すことについては良好である。
【例】相手を勧誘する表現に書き直す。「～する。」→「～しましょう。」
- 絵や図・吹き出し言葉などの情報が混在するポスター等からの文章化については課題がある。
- 必要な情報を収集・整理し、図を使って説明することについては課題がある。
【例】夏祭りのポスターと会話文をもとに、夏祭りをまわる順番を矢印で書く。

小学校算数A

◇問題数等 算数Aの問題は、主として知識に関する問題で、全部で18問ある。

◇調査結果 学習指導要領の領域別
(小学校 算数A レーダーチャート)



- 「数と計算」については比較的良好であり、正答率は74%である。
- 「図形」については他の項目に比べ低く課題がある。

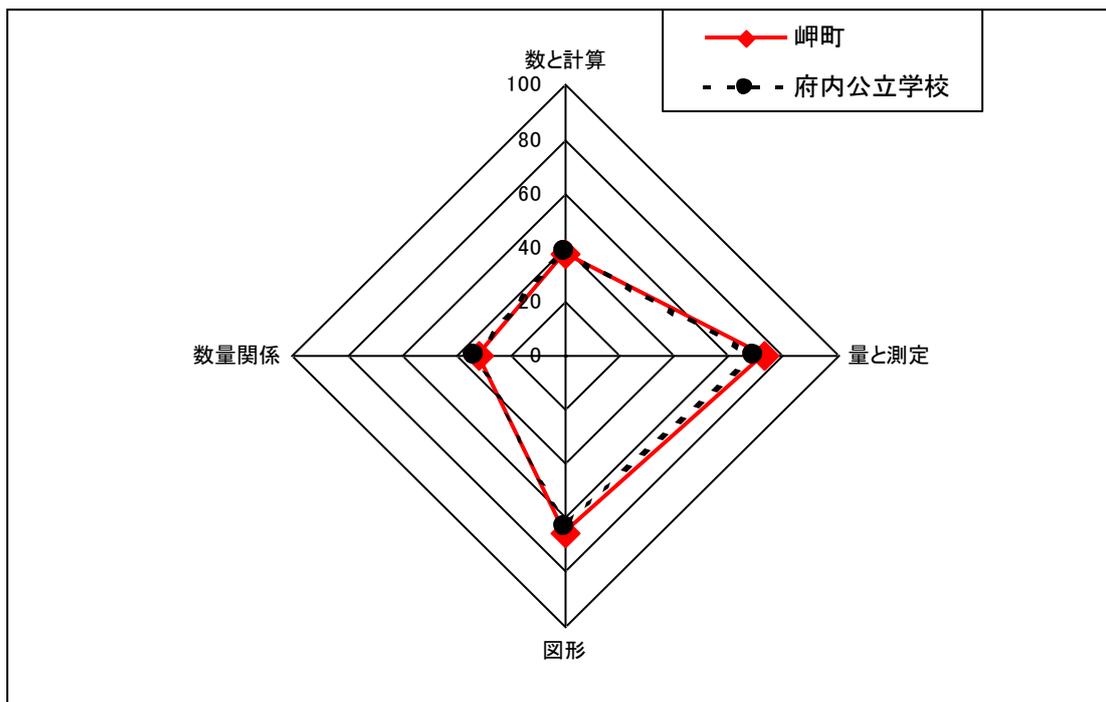
◇A区分問題にみえる課題等

- 基礎・基本の計算力については良好である。
【例】 2.8×4 、 $5 \div 4$ 、 $100 - 15 - 15 - 15$
- 二次元表の意味を理解し、数値を割り出すことについては良好である。
【例】表から「海に行くが、山には行かない人」の人数を求める。
- 位をそろえて計算したり、四則が混合した計算をしたりすることについては課題が見られる。
【例】 $30 - 2.1$ 、 $16 - 6 \times 2 - 1$
- 円周率は円周と直径の割合であることについての理解に課題がある。
【例】円周率は ① が ② の何倍になっているかを表す数である。
(①円周の長さ、②直径)

小学校算数B

◇問題数等 算数Bの問題は、主として活用に関する問題で、全部で13問ある。

◇調査結果 学習指導要領の領域別
(小学校 算数Bレーダーチャート)



- 「量と測定」「図形」については比較的良好である。
- 「数と計算」「数量関係」については課題がある。

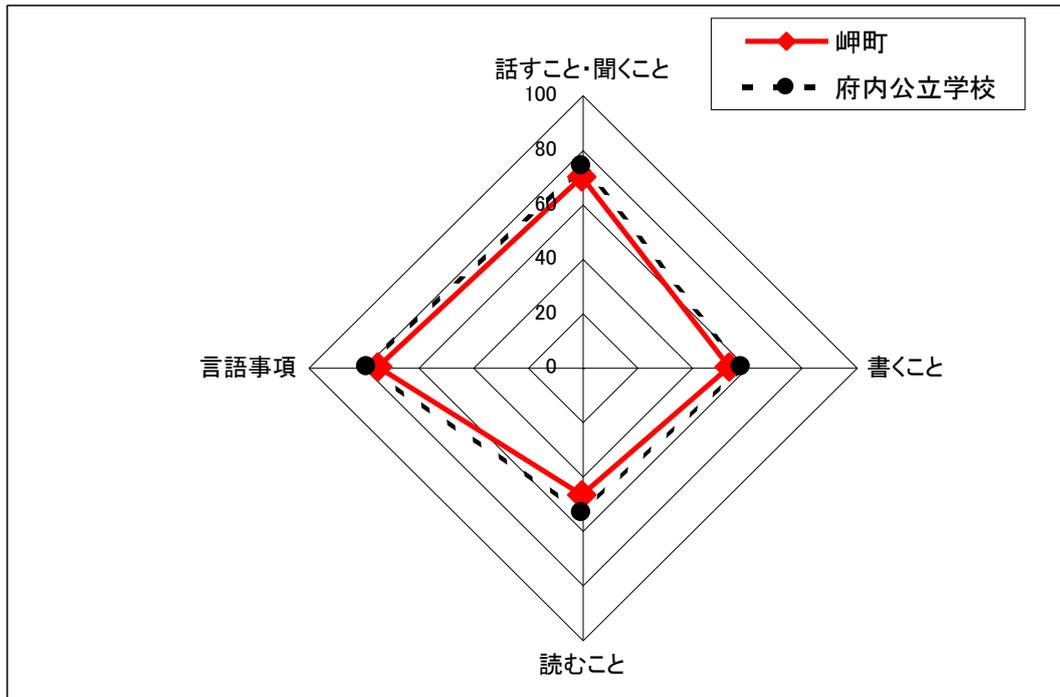
◇B区分問題にみえる課題等

- 正三角形を組み合わせて正六角形を作ることについては良好であり、95%以上の正答率がある。
- 単度量あたりで比べたとき内容を説明することについて良好である。
【例】果汁と水を混ぜ合わせ、5つのコップに分けたときの果汁と水の割合を説明する。
- 式を見て、その式をどのように作ったのかを説明することについて課題がある。
【例】 $12 \div 3 + 15 \div 3 \rightarrow (12+15) \div 3$ の式の考え方を説明する。
- 棒グラフ・折れ線グラフがある表をみて総量の変化を割合の観点から説明することについて課題がある。

中学校国語A

◇問題数等 国語Aの問題は、主として知識に関する問題で、全部で32問ある。

◇調査結果 学習指導要領の領域別
(中学校 国語A レーダーチャート)



- 「言語事項」については比較的良好であり、74%の正答率がある。
- 「読むこと」「書くこと」については課題がある。

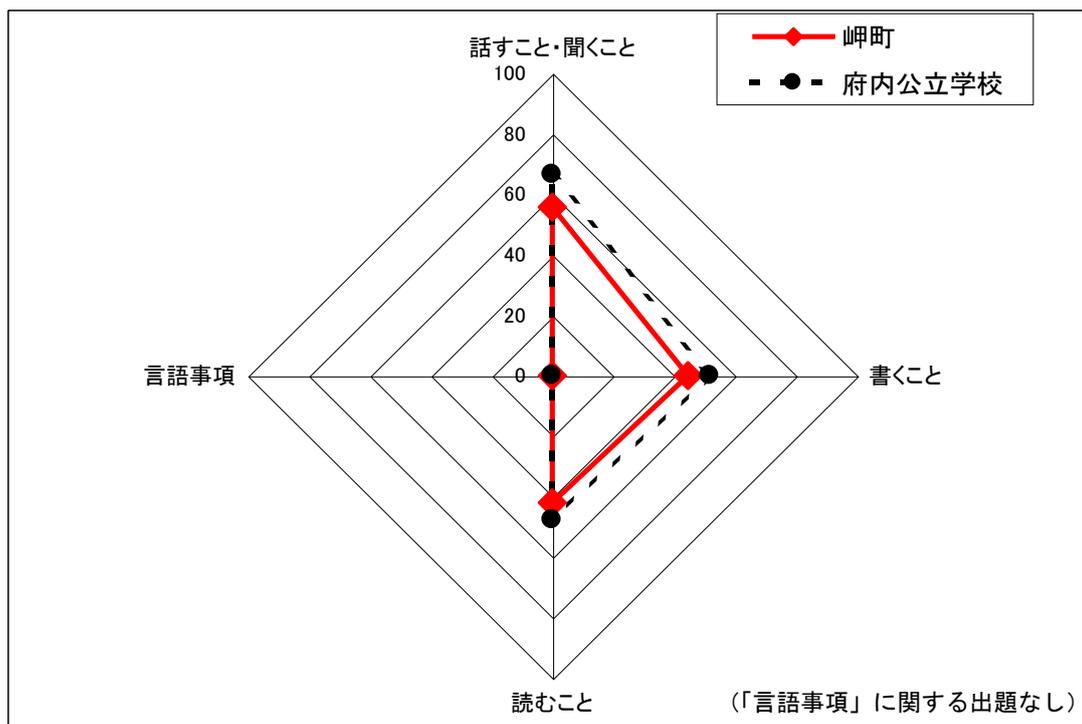
◇A区分問題にみえる課題等

- 漢字を正しく「読む」「書く」ことについては比較的良好である。
- 適切な副詞を選択することについては良好である。
【例】お忙しいでしょうが、 お体を大切にしてください。(どうか)
- 論理の展開の仕方をとらえて内容を理解することについては課題がある。
【例】本文を2つに分け、後半のはじめの5文字を抜き出す。
- 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことについては課題がある。
【例】「いふやう」 → 「いうよう」

中学校国語B

◇問題数等 国語Bの問題は、主として活用に関する問題で、全部で10問ある。

◇調査結果 学習指導要領の領域別
(中学校 国語B レーダーチャート)



- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」については課題がある。

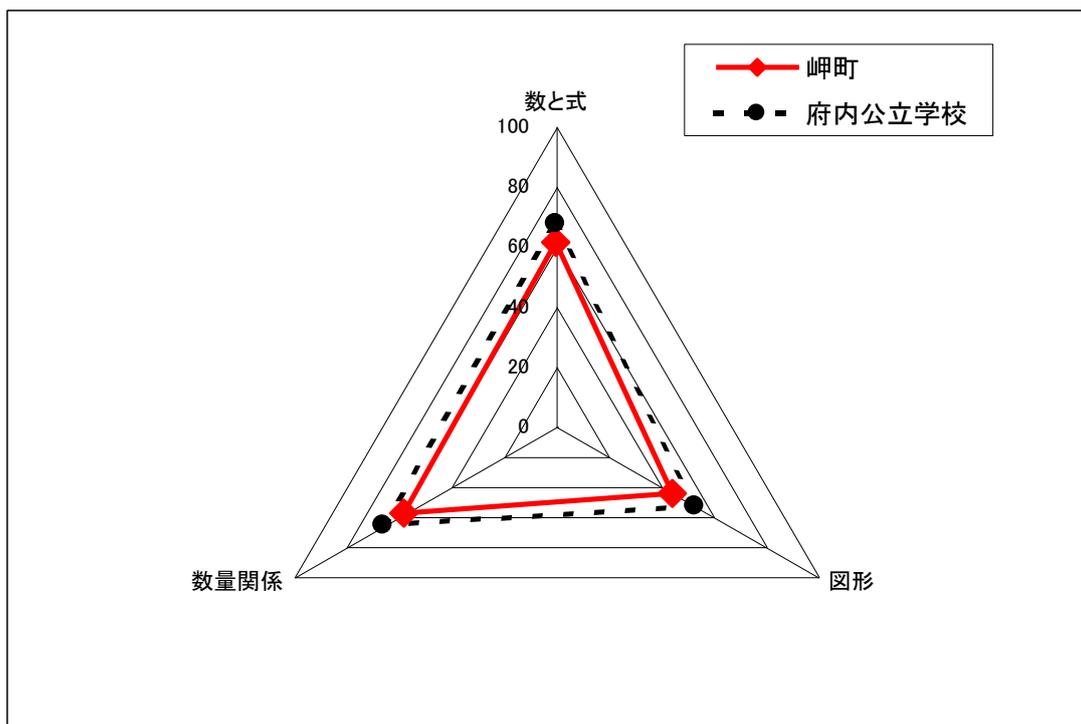
◇B区分問題にみえる課題等

- 話し手の意図を考えながら話の内容を評価することについては比較的良好である。
【例】2つの文の共通点を書く。
- 文章と資料との関わりをとらえることについては比較的良好である。
【例】書かれた文章は、どのグラフを見て書かれたものかを選択する。
- 文章の内容を資料を例にして説明することについては課題がある。
【例】文章を読んで、より多く売れる商品を選び、その理由を説明する。
- 文章の表現の特徴をとらえることについては課題がある。
【例】文章の表現の特徴を説明したものとして適切でないものを選ぶ。

中学校数学A

◇問題数等 数学Aの問題は、主として知識に関する問題で、全部で33問ある。

◇調査結果 学習指導要領の領域別
(中学校 数学A レーダーチャート)



● 特に「図形」「数量関係」については課題がある。

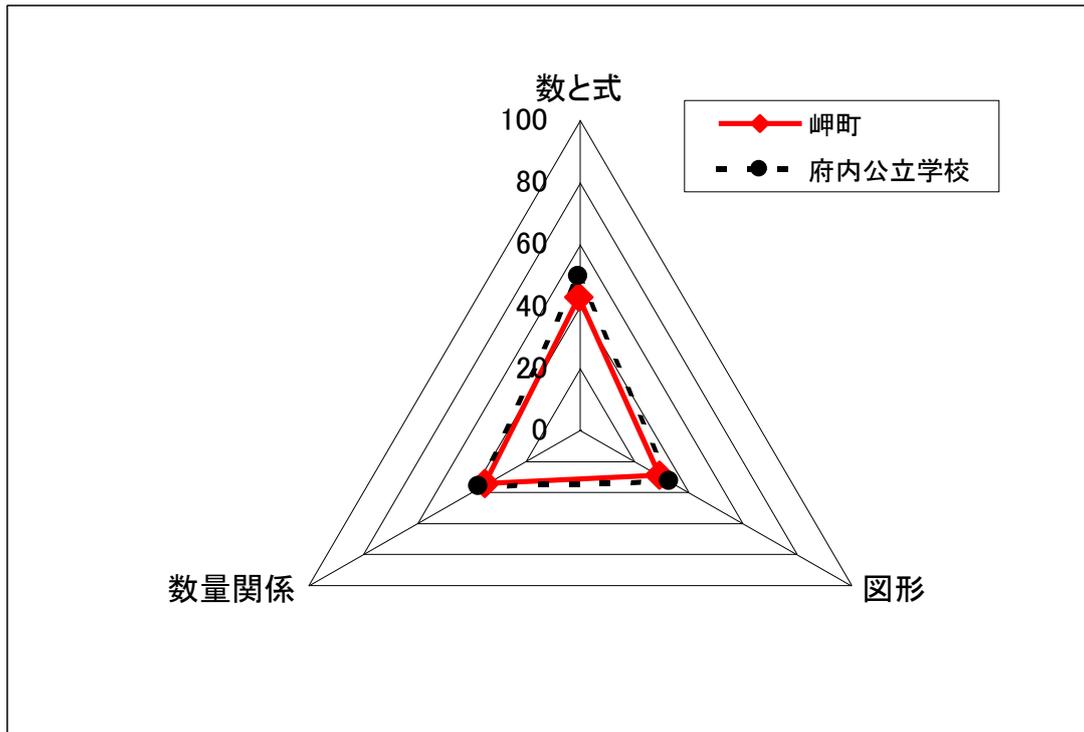
◇ A区分問題にみえる課題等

- 比例の定義を理解していることについて比較的良好である。
【例】 y が x に比例する時、その関係について正しい文を選ぶ。
→ x の値が2倍3倍…になると、 y の値は2倍3倍…になる。
- 与えられたグラフから必要な情報を読み取ることについて比較的良好である。
- 円すいの体積と、底面積と高さの等しい円柱の体積との関係を理解することについては課題がある。
【例】 円すいに入っている水を円柱に移した時の深さを求める。
- 一次関数の式とグラフの関係を理解することについては課題がある。
【例】 $y = 1/3x - 2$ についてグラフが y 軸と交わる座標を求める。

中学校数学B

◇問題数等 数学Bの問題は、主として活用に関する問題で、全部で16問ある。

◇調査結果 学習指導要領の領域別
(中学校 数学B レーダーチャート)



- 「数と式」「図形」「数量関係」については課題がある。

◇B区分問題にみえる課題等

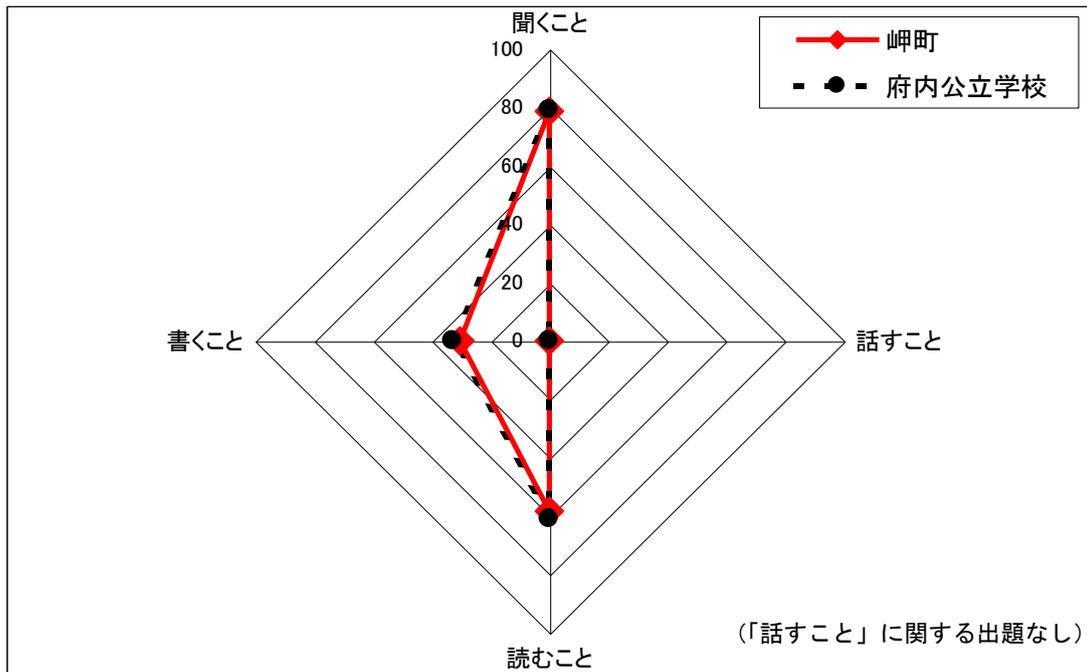
- 成り立たないことを説明するときの適切な反例を選ぶことについては比較的良好である。
- 新たに与えられた情報と条件をもとに速さを想定し、その理由を説明することについては課題がある。
【例】グラフを見ながら走る速さが遅くなる地点を見つけ説明する。
- 与えられた事象を図形に着目して観察し、体積との関係をとらえることについては課題がある。(無回答率57.4%)
【例】牛乳パックの中身が $\frac{1}{2}$ であることを「底面積」という言葉と使って説明する。
- 新たに成り立つ性質を見だし、例にならって命題の形で記述できることについて課題がある。(無回答率51.5%)
【例】「4でわると1余る数」と「4でわると2余る数」の和は4の倍数である、という命題は間違いである。余りがどのような数なら和が4の倍数になるのか。

中学校英語

◇問題数等 英語の問題は、全部で25問ある。

◇調査結果 学習指導要領の領域別

(中学校 英語 レーダーチャート)



○「聞くこと」については比較的良好であり、78%の正答率がある。

●「書くこと」については課題がある。

◇問題にみえる課題等

○ 具体的な内容や大切な部分を聞き取ることについては良好である。

【例】(A) We have milk, water, orange juice and apple juice.

(B) Apple juice please.

→What dose the boy want? (Apple juice)

○ 英語で書かれた手紙の内容を理解することについては比較的良好である。

● 文脈に即した語句を使うことや文法・語法を理解することについて、課題がある。

【例】I went the park baseball with my friends. (to play)

● 適切な疑問詞を用いて疑問文を作成することについては課題がある。

【例】 to our school every week?

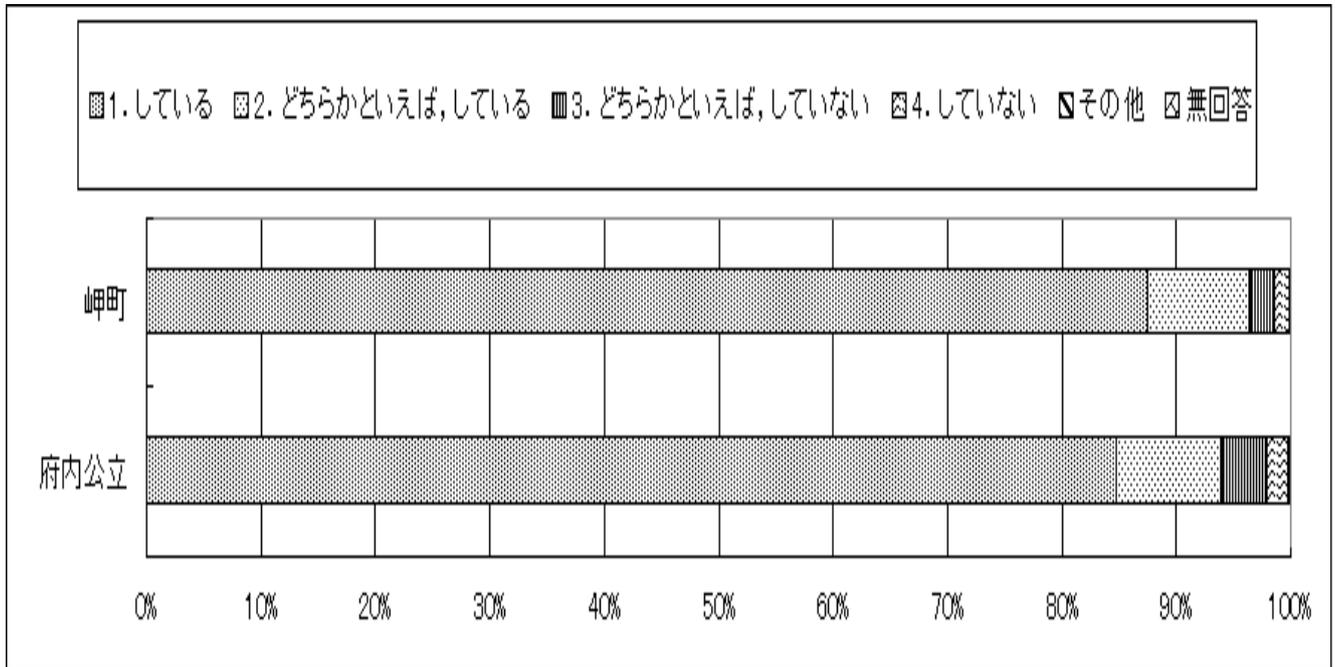
(How many days do you come)

岬町の子どもたちの生活の様子

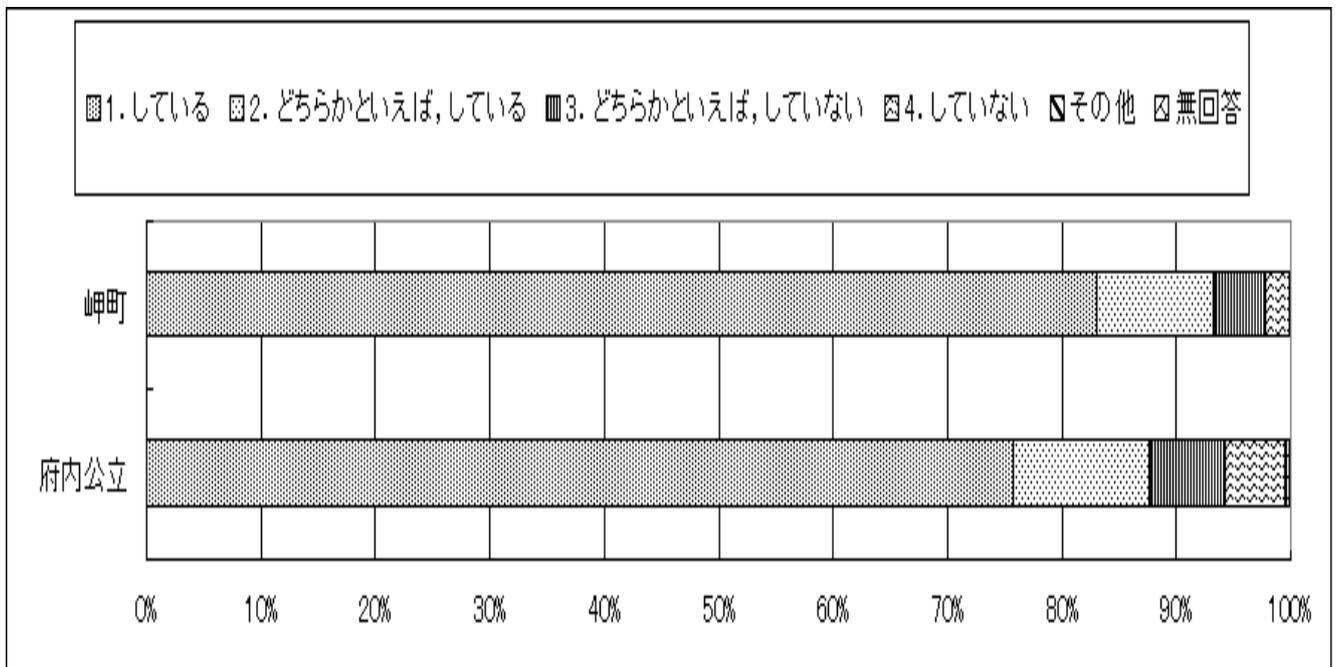
(小学校・中学校)

—児童・生徒質問紙より—

1. 朝ごはんを毎日食べていますか（小学校）

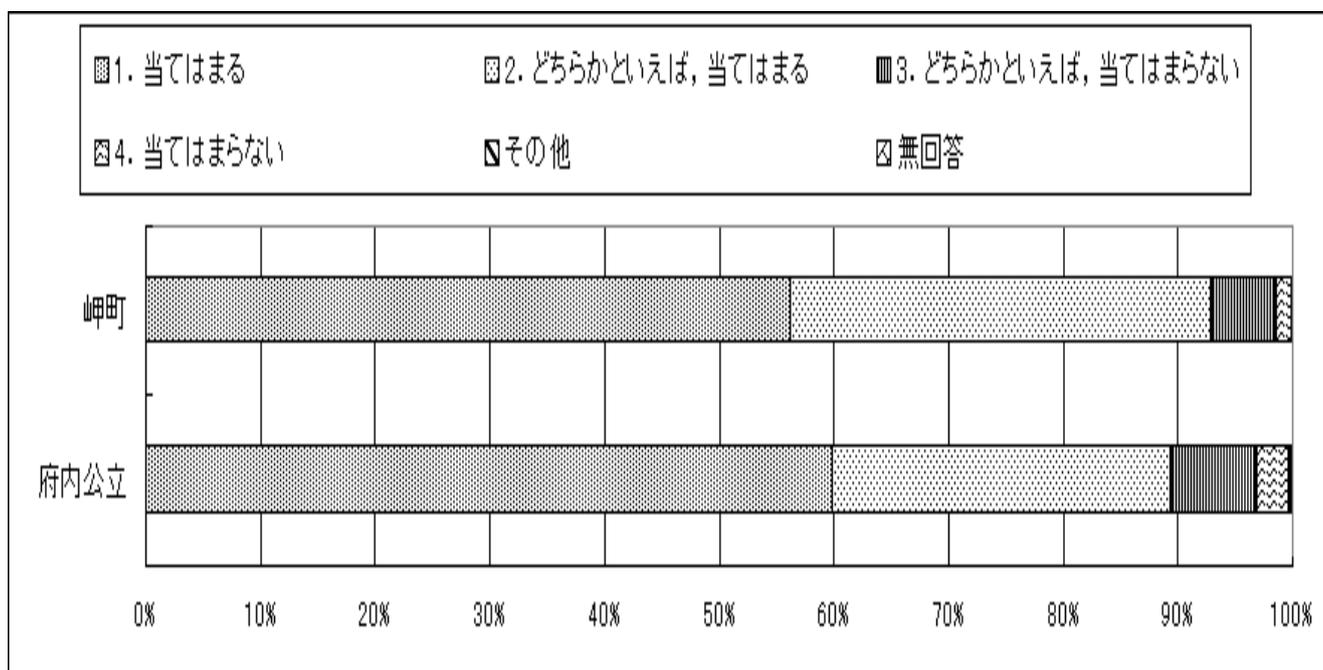


1. 朝ごはんを毎日食べていますか（中学校）

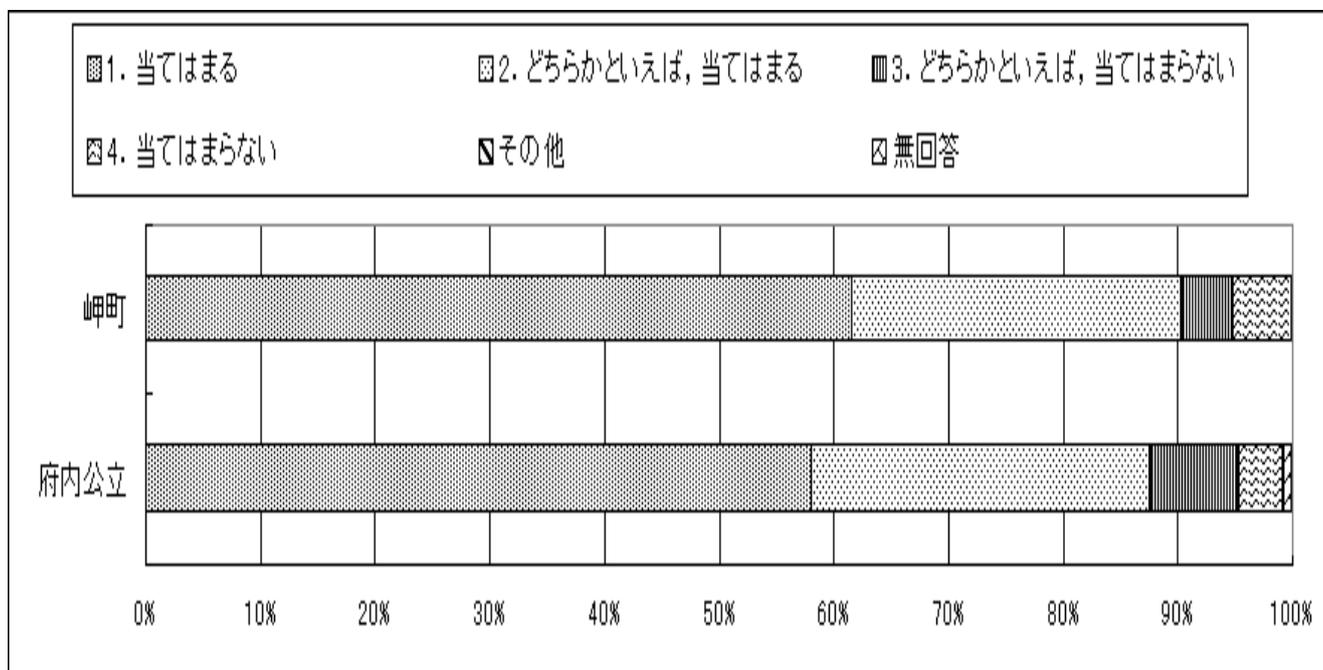


- 「している」「どちらかといえばしている」割合は、小中学校ともに90%を超えている。
- 「していない」「どちらかといえばしていない」の児童・生徒について、状況を把握し家庭において改善されるよう働きかける必要がある。

2. 近所の人に合ったとき、あいさつをしている（小学校）

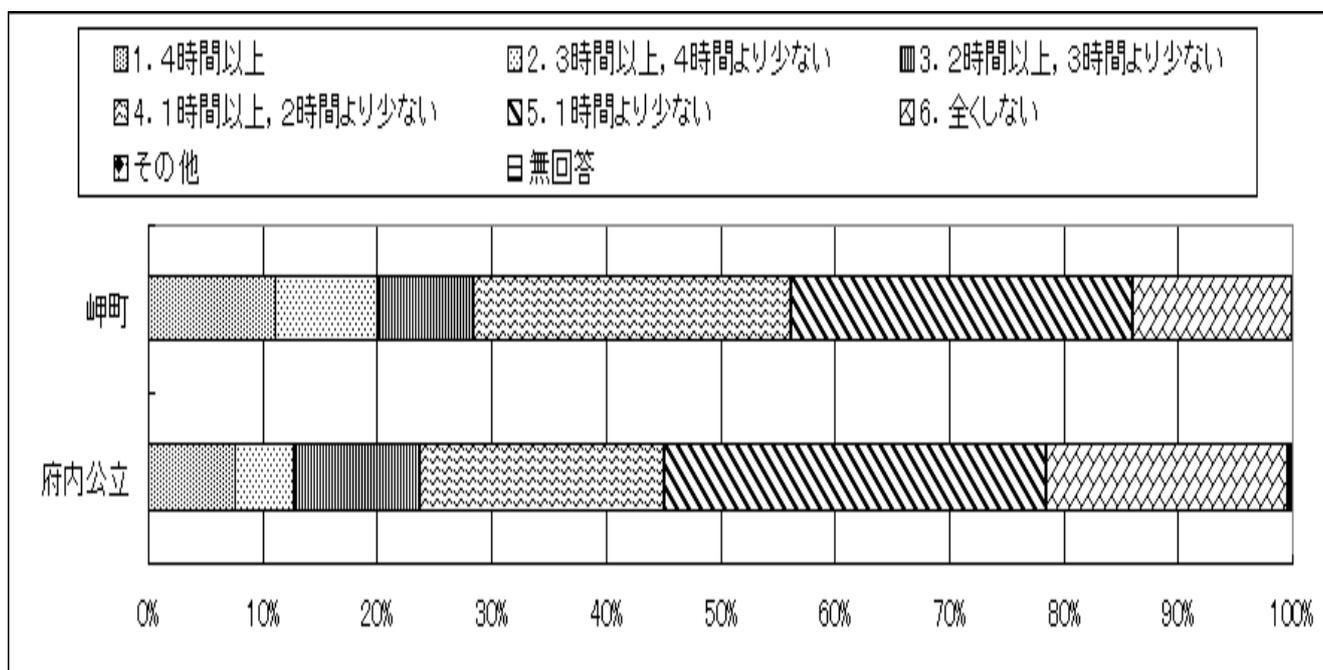


2. 近所の人に合ったとき、あいさつをしている（中学校）

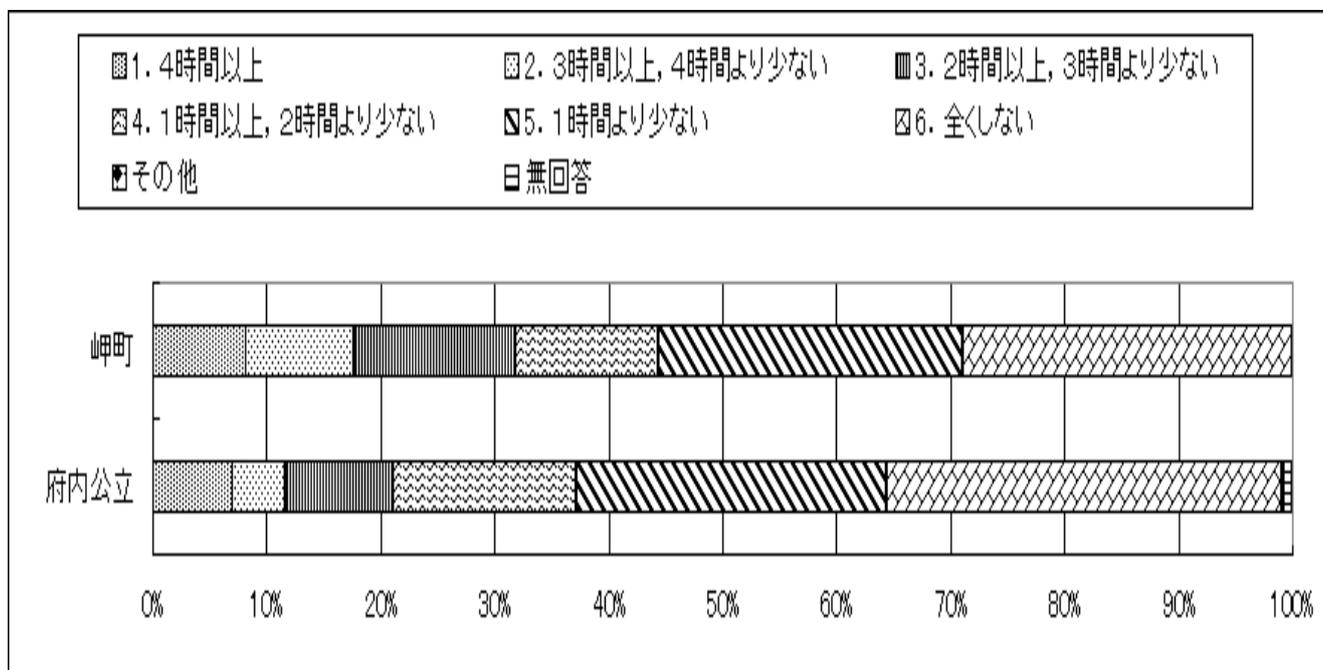


○「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」割合は、小中学校ともに90%を超えている。
 ○中学校では、府内公立と比較して「当てはまる」割合も高いが、「当てはまらない」割合も高い。

3, ふだん1日どれくらいの時間テレビゲームをしますか（小学校）

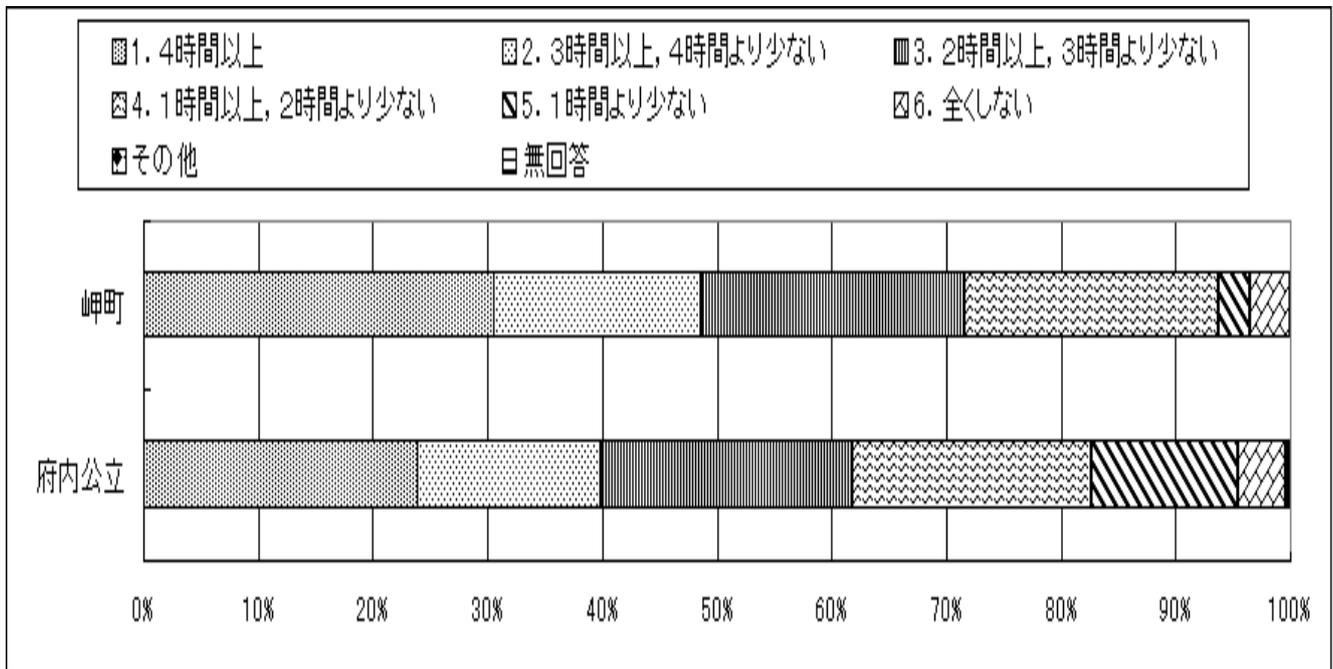


3, ふだん1日どれくらいの時間テレビゲームをしますか（中学校）

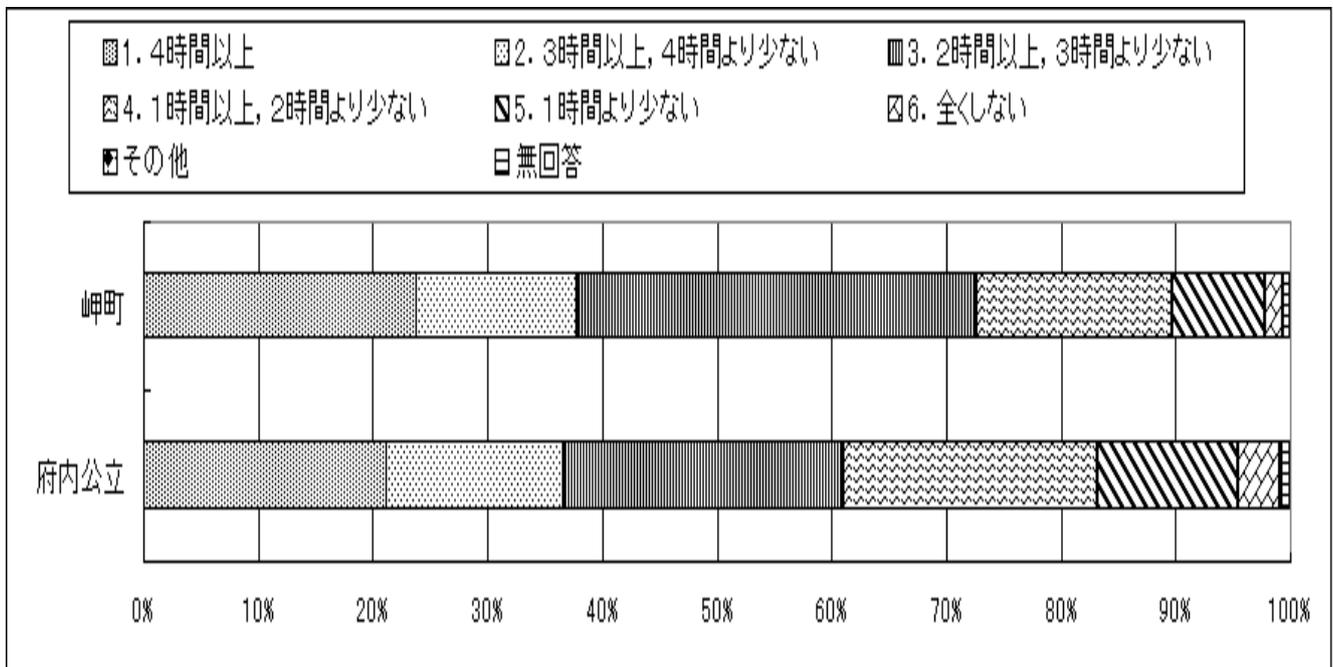


○2時間以上ゲームをしている割合は、小学校で28%、中学校では30%を超えている。
 ○府内公立と比較して、小中学校ともにゲームをする時間は長い。

4. ふだん1日どれくらいの時間テレビ・DVD等を見聞きますか（小学校）



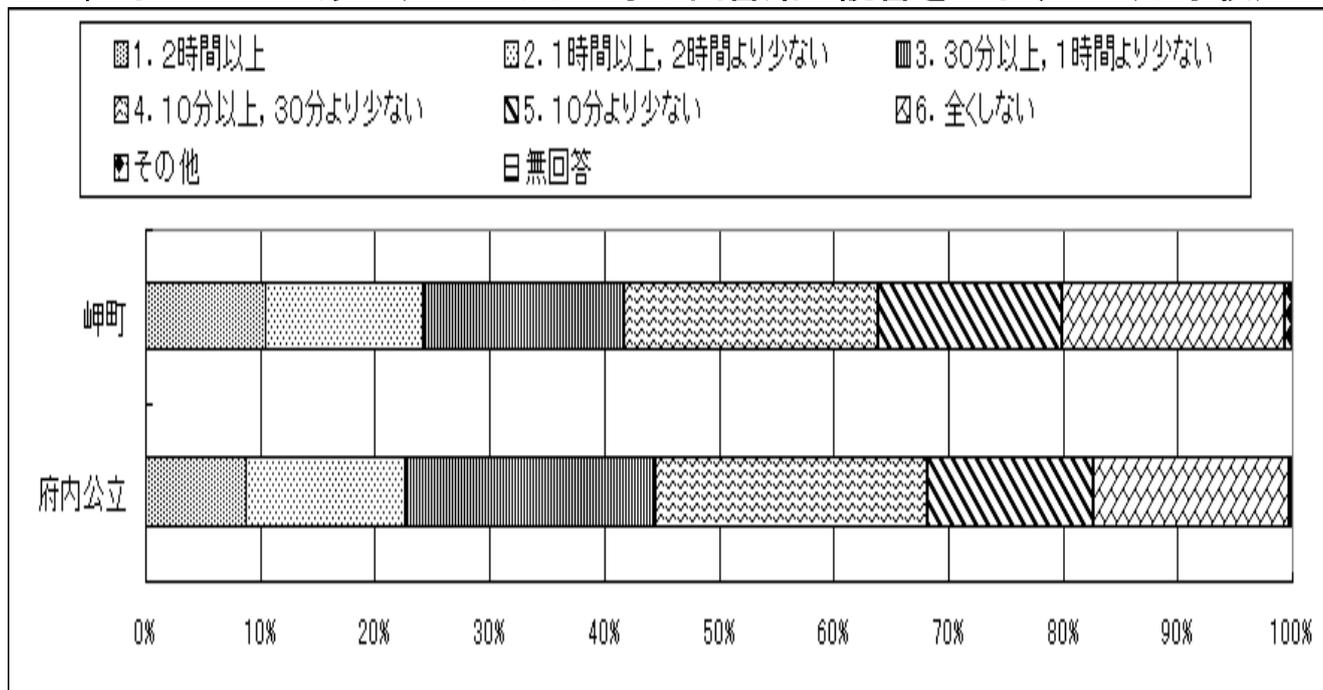
4. ふだん1日どれくらいの時間テレビ・DVD等を見聞きますか（中学校）



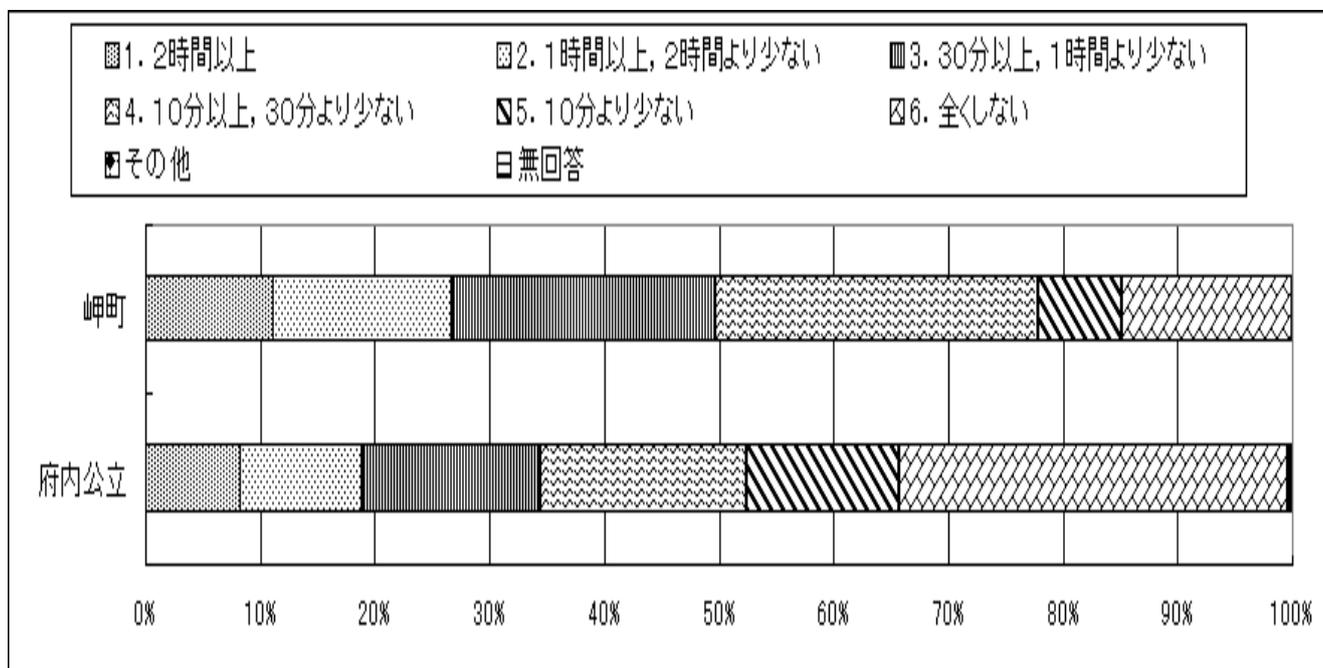
○2時間以上見たり聞いたりしている割合は、小中学校とも70%を超えている。

○府内公立と比較して、小中学校ともにテレビやDVD等を見聞きする時間は長い。

5. ふだん1日あたりどのくらい家や図書館で読書をしますか（小学校）



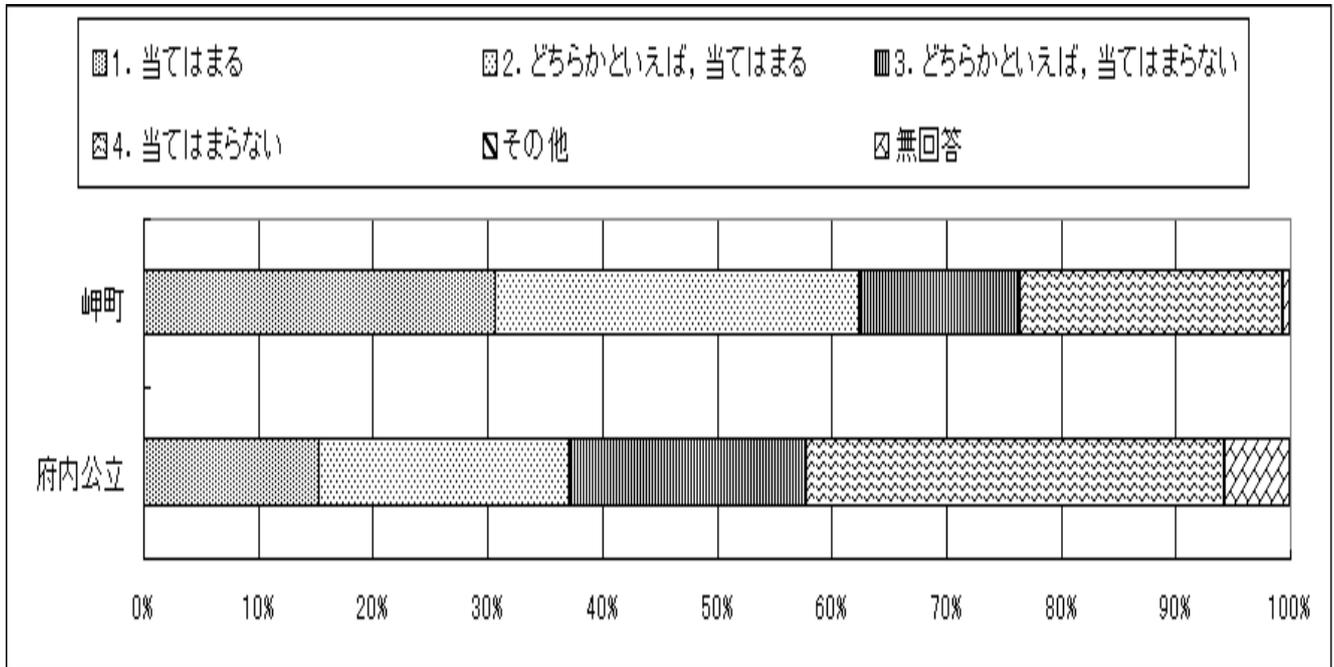
5. ふだん1日あたりどのくらい家や図書館で読書をしますか（中学校）



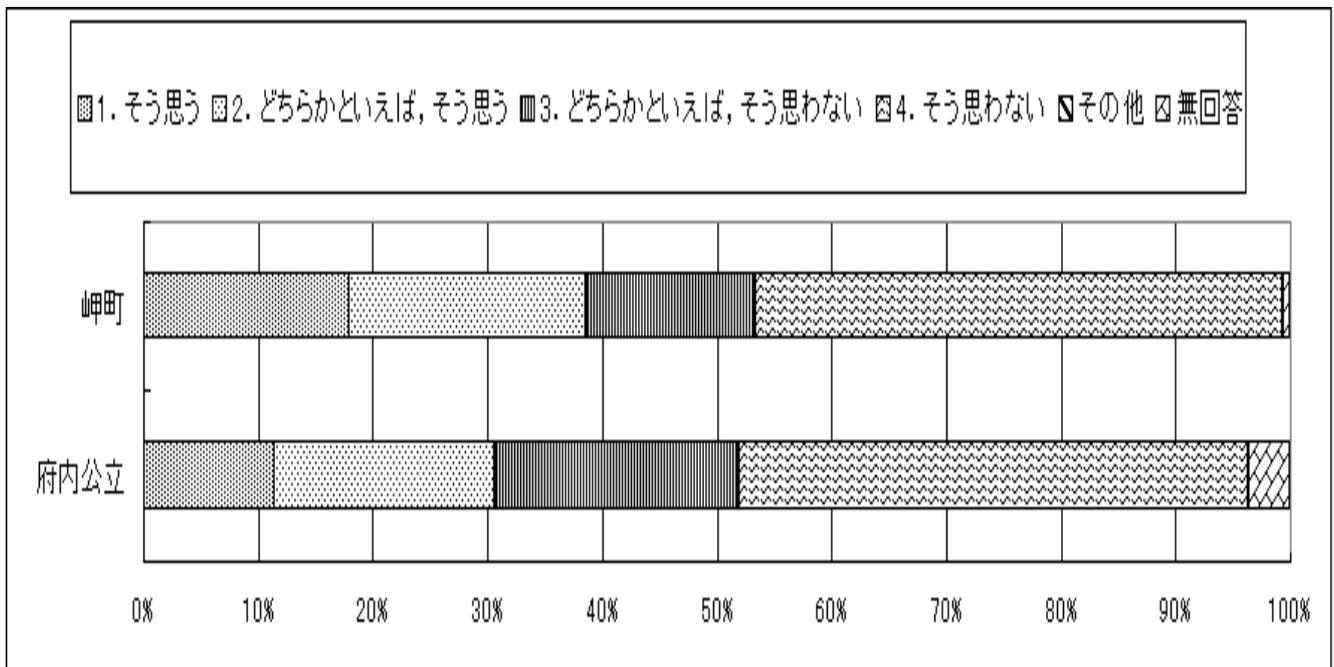
○小学校において、府内公立と比較しても「1時間以上」読んでいる割合は高いが、「10分より少ない」「全くしない」割合も高い。

○中学校において、「1時間以上」読んでいる生徒の割合は約50%あり、府内公立と比較しても高く、「10分より少ない」「全くしない」割合はとても低い。

6. 学校で実施している放課後学習や休みの日の学習教室などは勉強に役立った（小学校）



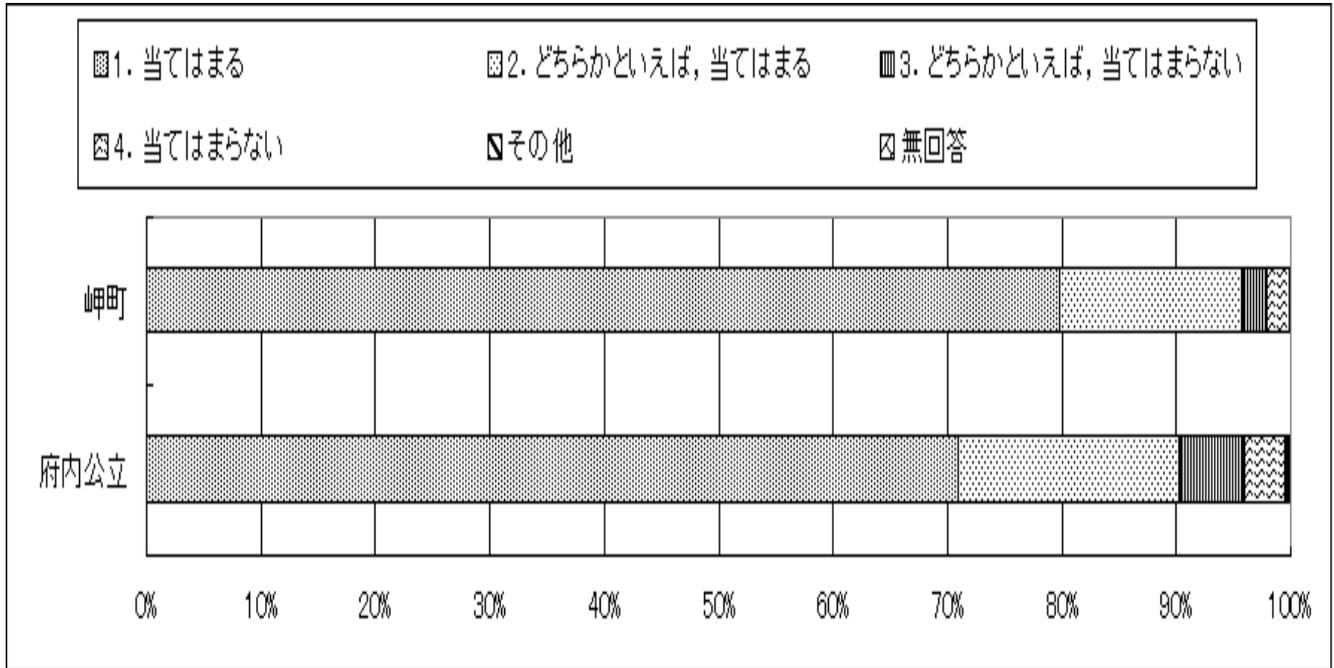
6. 学校で実施している放課後学習や休みの日の学習教室などは勉強に役立った（中学校）



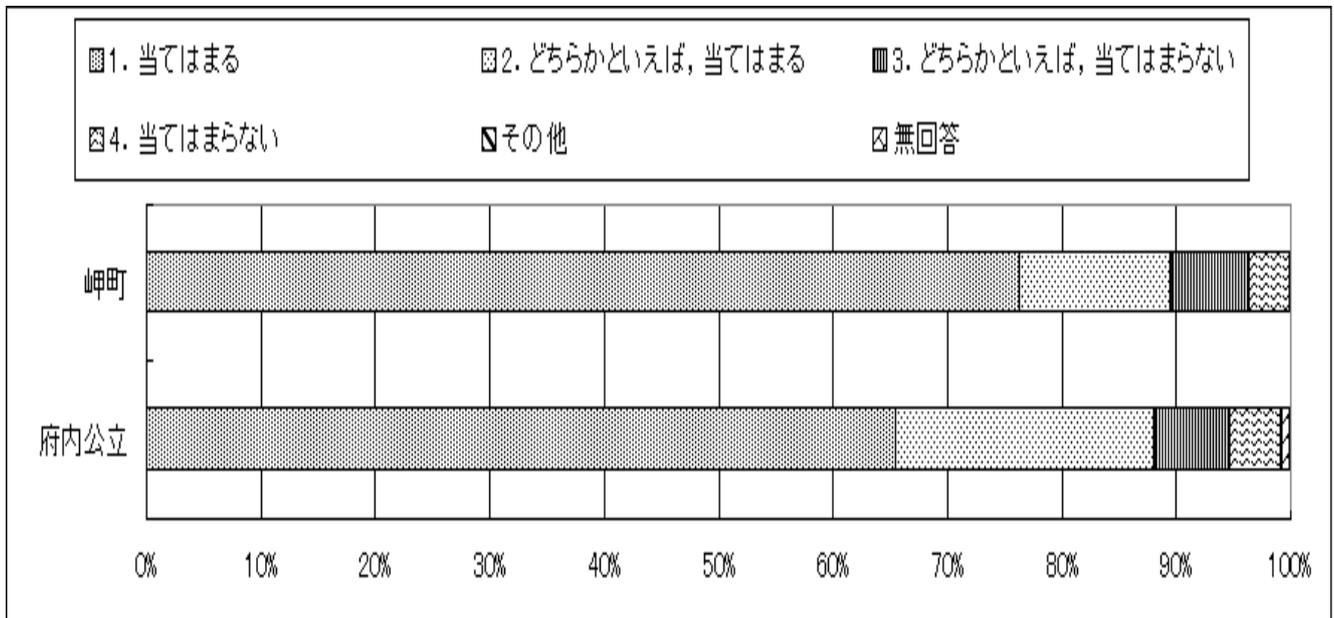
○小学校において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」割合は60%を超えており府内公立と比較してもとても高く、各校における放課後学習の成果が見られる。

○中学校において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」割合は40%近くあり、府内公立と比較しても肯定的な割合が高い。

7. いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う（小学校）

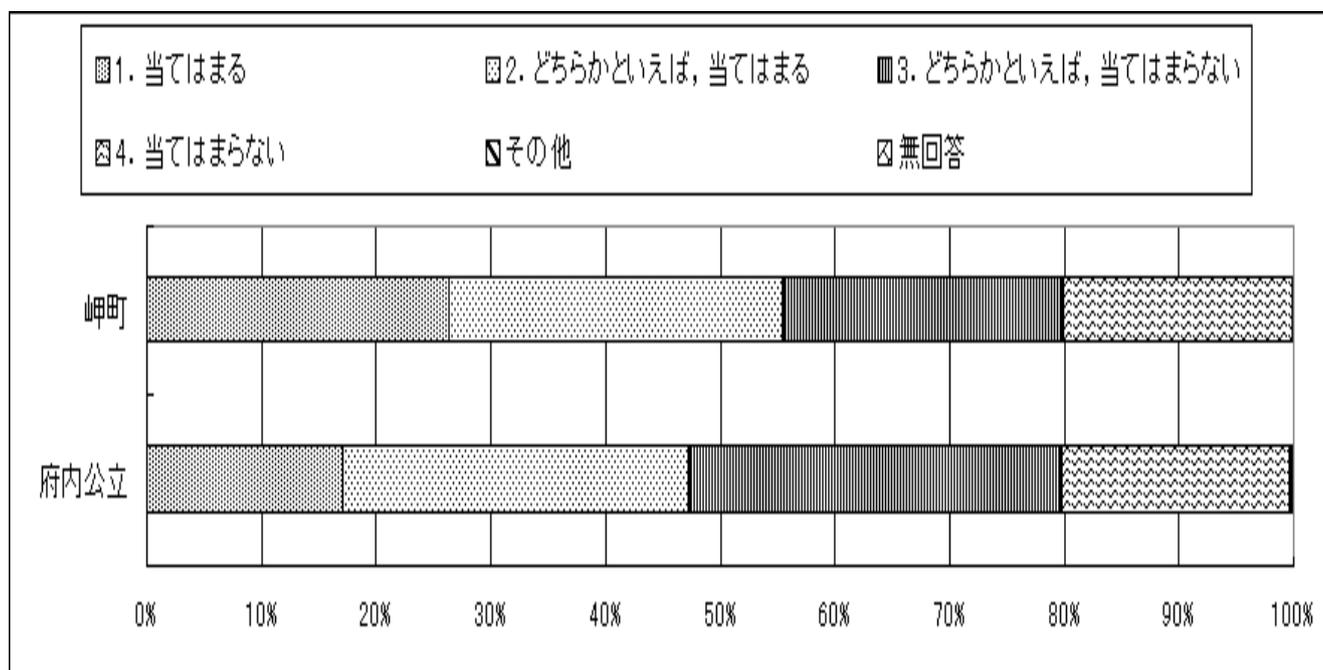


7. いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う（中学校）

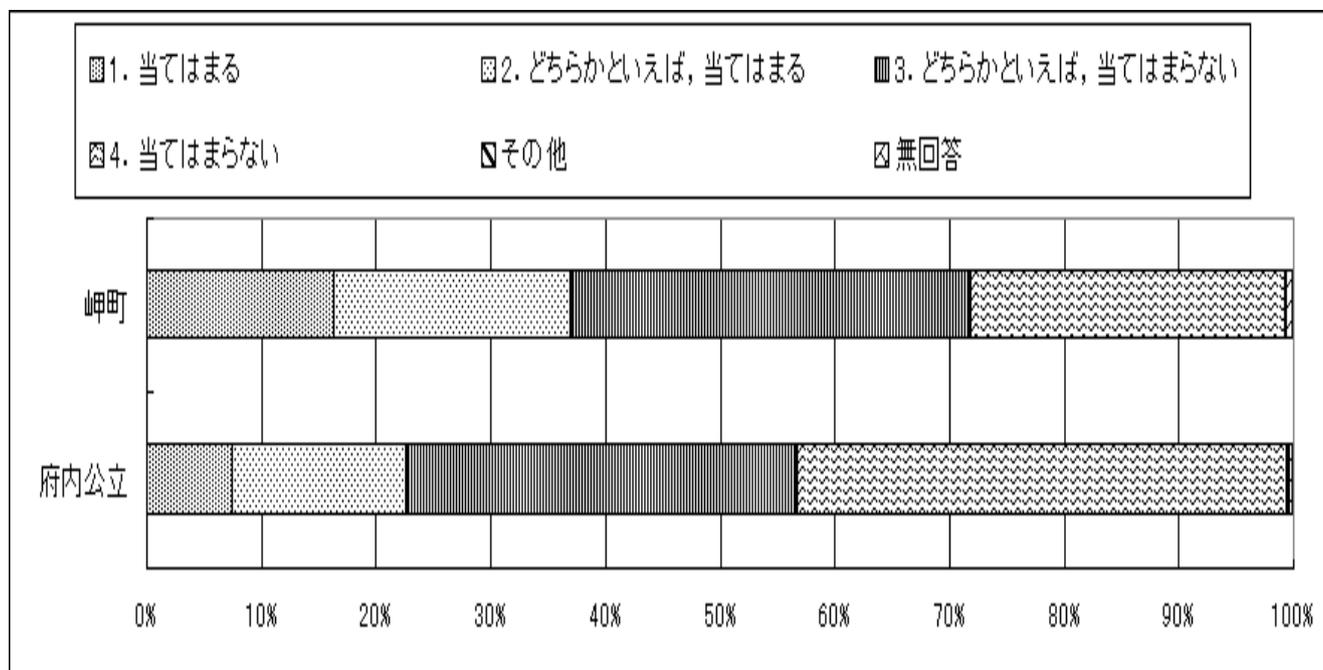


- 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」割合は、小学校では95%であり、中学校では約90%である。
- 府内公立と比較して、小中学校ともにいじめ問題に関する意識が高いといえ、各校における人権教育の取り組みの成果が見られる。

8、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える（小学校）

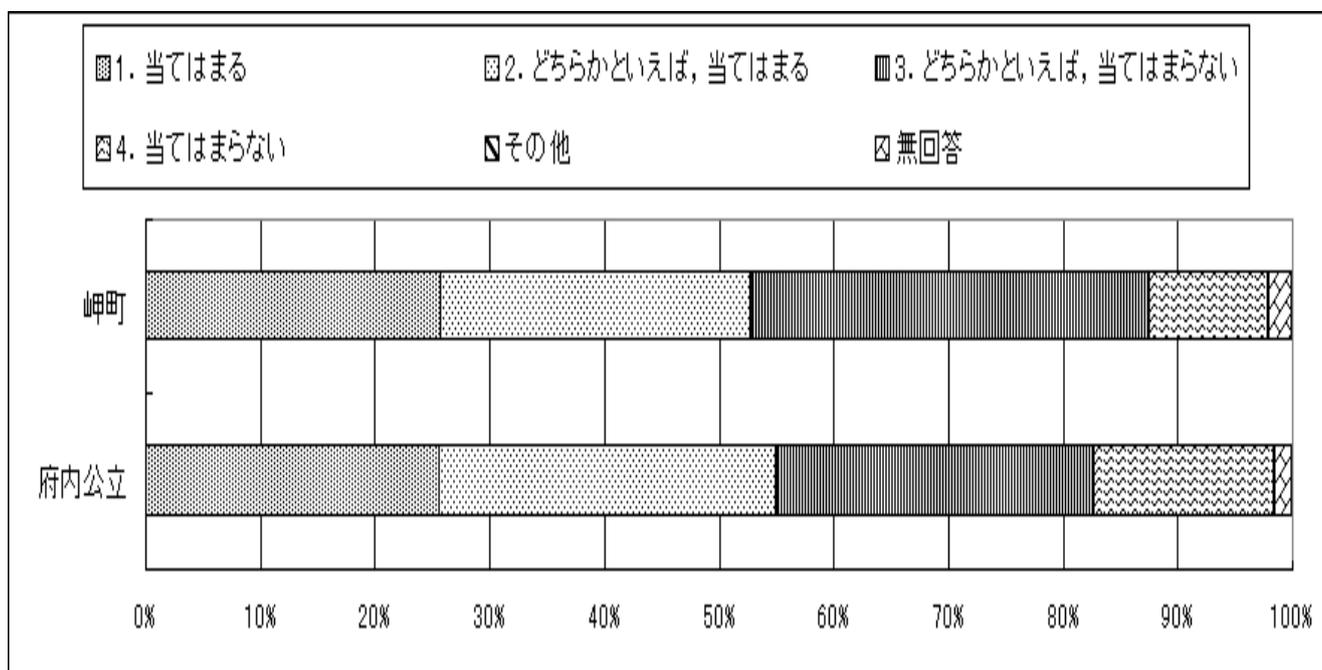


8、数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える（中学校）

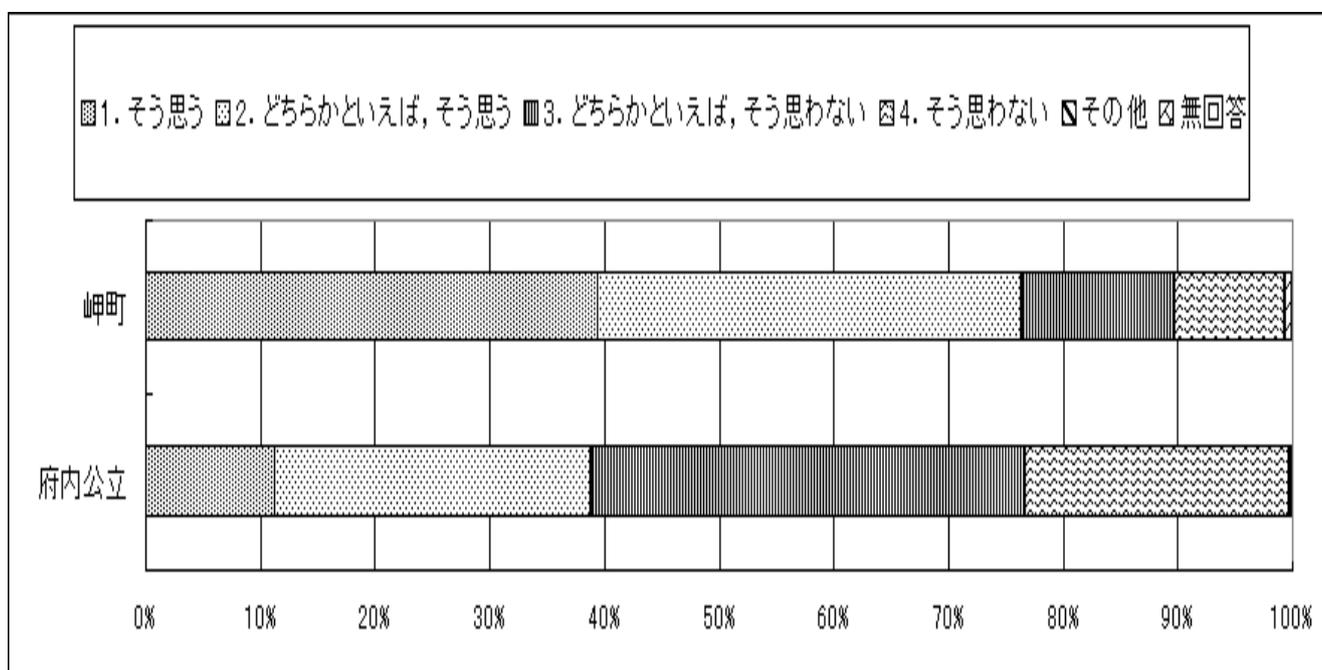


○小学校において「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」割合が50%を超えている。
 ○府内公立と比較して、小中学校ともに普段の生活の中で活用できるか考えている児童生徒が多い。

9. 普段の授業では、自分の考えを発表する機会がよくある（小学校）



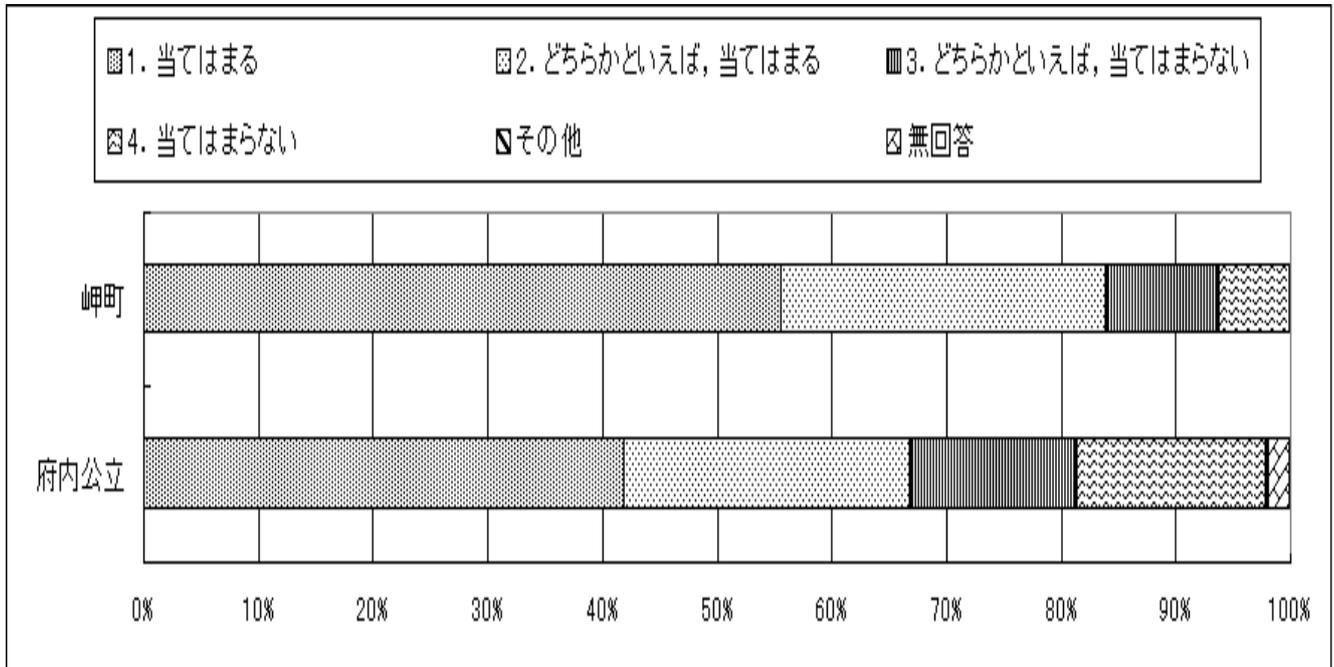
9. 普段の授業では、自分の考えを発表する機会がよくある（中学校）



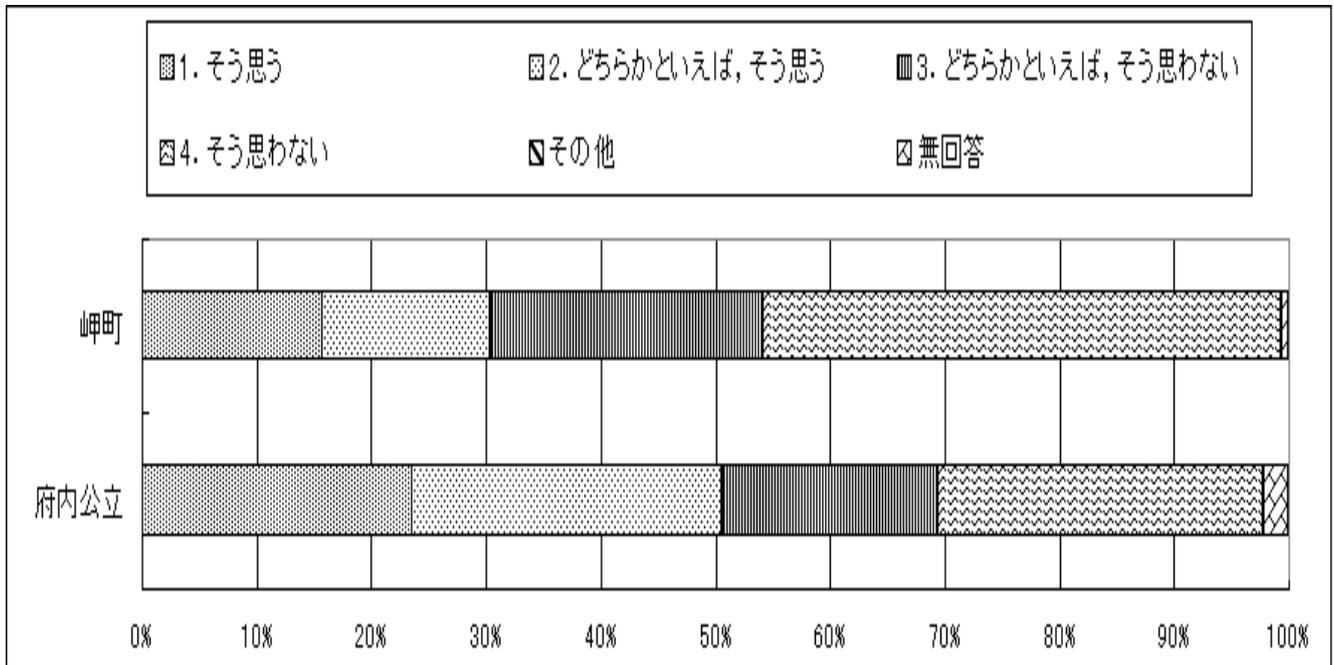
○小学校において「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」割合が50%以上あるが、府内公立と比較すると割合は低い。

○中学校において「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」割合が76%であり、府内公立と比較して高く、中学校での授業改善の成果が見られる。

10, 勉強のわからないところを、ゆっくり丁寧に学習するコースや、早く進むコースなどに分かれて行う授業はよくわかる（小学校）



10, 勉強のわからないところを、ゆっくり丁寧に学習するコースや、早く進むコースなどに分かれて行う授業はよくわかる（中学校）



○小学校において「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」割合が84%であり、府内公立と比較しても高く、小学校での少人数・習熟度別指導の成果が見られる。

○中学校において「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」割合が30%以上あるが、府内公立と比較すると割合は低い。